

デートの誘いはありますか？

【プログラムのねらい】

現代社会は、携帯電話やインターネットなどが発達した高度情報化社会と言われます。大変便利な反面、さまざまな問題も抱えています。その一つに思春期にある中学生、高校生が出会い系サイトの被害者となる問題があります。ここでは、情報化社会が抱える問題について理解し、中学生・高校生が被害に遭わないようにするためにはどうしたらよいかについて学習します。

【プログラムの展開例】（時間：60分程度）

	○進め方、◎ことばかけ	留 意 点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介をします。 ○プログラムのねらいや学習の進め方について説明します。 ○自己紹介やゲームを行い、緊張を和らげたり、参加しやすい雰囲気づくりをします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○明るく元気な話し方を心がけます。 ○今日の学習の思春期に簡単にふれ、プログラムのねらいについて説明します。 ○参加者に気を配り、ゲームに参加できていない人や戸惑っている人には、明るく声をかけをし、参加を促します。 ○ゲームなどが終了するまでに、次の活動にスムーズに移れるようにグルーピングしておきます。 ○1グループ4人か6人とします。この後のロールプレイのために、なるべく偶数人数の編成にします。 ○導入で時間を取りすぎると展開やまとめの時間が少なくなります。あらかじめ時間配分を考えて進めていくようにします。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ◎「ワーク1」の資料から気付いたことや感想を記入しましょう。 ○出会い系サイトについて説明をします。 ○「ワーク2」の事例を読んで具体的な対応を考えます。 ◎については、グループで話し合いをします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気付いたことや感想をメモするように話します。 ○被害者の80%以上が18歳未満の青少年であり、女性がほとんどであることをとらえさせるようにします。 ○出会い系サイトに絡む新聞を用意しておき、実際に起きた事件の概要を説明します。 ○コンピューターの普及で様々な情報を得ることができるようになり便利になりましたが、その情報の信憑性や必要性などを分析する能力が求められていることを話します。 ○答えに「正しい」、「間違っている」ということではないので、自分の考えを書くように話します。

	<p>○「ワーク3」では、2人組をつくり、親子の役割分担を決め会話形式で話を展開します。</p> <p>◎「ワーク4」は、基本的なインターネットのチェックカードです。やってみましょう。</p>	<p>○話し合った内容をまとめてもらい、グループごとに発表し合うことをあらかじめ知らせておきます。</p> <p>○インターネットに潜む危険性について、会話に入れるように話します。</p> <p>○他の組の会話から必要なことをメモするように話します。</p> <p>○インターネットの使い方などについて家族で話し合うきっかけとするように話します。</p> <p>○「いいえ」の回答が多かった人はインターネットの陰の部分の情報を集めることが必要であることを話します。</p>
まとめ 10分	<p>◎今日の学習のまとめをしましょう。</p> <p>○参加者一人一人に今日の学習を通して考えたことや感想を書いてもらいます。 (ふりかえり)</p> <p>○発表してもらいます。</p>	<p>○今日の学習を振り返り、特に印象に残ったことを中心に書くように話します。</p> <p>○あらかじめ、数人の方に感想を発表してもらうようお願いしておきます。</p> <p>○発表を共感的に受け止め、発表に対して手短かにコメントします。</p> <p>○携帯電話やインターネットの普及に伴う高度情報化時代の光と陰の部分について補足するとともに親の役割について考えていくことの大切さを話しまとめます。</p>

※ 設定時間が短い場合には、ワーク1、2を中心に流れを考えるようにします。



資料 1

携帯電話やパソコンは使いよう。

携帯電話やインターネットは、使い方一つで、役立つ道具にもなれば子どもの身を危険にさらす道具にもなります。外の世界とすぐに情報がつながることは見知らぬ危険な世界と子どもが直結することになります。

子どもが使用したいと言ってきたときこそ、話し合いのチャンス。「なぜ使用したいのか」などについて、親子で話し合い、納得した上で、使う、使わないを決めましょう。

使うときは、例えば、フィルタリング機能を設定する、携帯電話は寝るとき部屋に持ち込まない、夜10時以降は使わないなどの使用場所や使用時間、使って良い目的などについて、それぞれの成長段階に合ったルールを家庭で決めましょう。特に、出会い系サイトには要注意。性への関心が高まるこの時期には隠しておくのではなくきちんと危険性を親の方から話しましょう。また、マナーモードの使用などの公共のマナーや、知らない人には個人情報は教えない、知らない人とは会わないなど、危険から身を守る方法についても、親がしっかり教えることが必要です。

資料 2

情報モラルについて家庭で話し合いましょう。

ウェブやメールなどのインターネットによるとコミュニケーションでは、顔の見えない相手とのやり取りになるため、ちょっとしたことが原因でトラブルに発展してしまうことがあります。また、最近では、個人が特定されるような書き込みで誹謗（ひぼう）中傷を受けたり、悪口が書かれたメールが送られたりする「ネットいじめ」などの例もあります。顔の見えない者同士のやり取りには危険がともなうことがあったり、そのつもりはなくても相手を傷つけてしまうおそれがあることなど、日頃から子どもに教えることが大切です。

資料 3**子どもを有害な情報から守るために**

インターネット上には、子どもにとって有害な情報が氾濫しています。子どもを有害な情報から守るための有効な手段の一つとして「フィルタリング」が挙げられますが、何より大切なのは、これらの活用と併せて、保護者がインターネットで子どもが何をしているか見守ることです。

*フィルタリング…一定の基準に基づき、アダルトサイトや暴力的なサイトなど、青少年にとって不適切と思われる多くのホームページを閲覧できないようにするための技術的手段。子どもにパソコンや携帯電話を使わせる時はパソコンの場合は「フィルタリングソフト」（無料提供している団体もある）の導入、携帯電話の場合は携帯電話会社各社が提供する無料の有害サイトアクセス制限サービスを利用するようにしましょう。

資料 4**情報モラルやフィルタリングソフトに関する情報** **文部科学省**

情報モラル 授業サポートセンター <http://sweb.nctd.go.jp/support/index.html>

 財団法人インターネット協会

インターネットの利用ルールについて <http://www.iajapan.org/rule/>

フィルタリングソフトについて <http://www.iajapan.org/rating/>

 財団法人全国防犯協会連合会

少年がインターネットを安心して利用するために

<http://www.iajapan.org/zenboren/ansin2002.html>

*一番大切なことは子ども自身が「自分を大切に思い」いつも温かく支えてくれる「家族」があることです。みんなで頑張りましょう。笑顔あふれる家庭づくりを！

（資料1～4は、文部科学省『イキイキ子育て家庭教育手帳－埼玉県版－（平成19年）』から）